

第6学年B組 外国語活動学習指導案

授業者 石田 智之 (HRT), Roberto Bonilla (ALT)
研究協力者 佐々木雅子, 若有 保彦
教材分析協力者 佐々木和貴, Adrian Paterson

1 単元名 外国人観光客と話してみよう in 函館

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

本学級の子どもたちは、外国語に親しんだり他者とコミュニケーションしたりすることを楽しみにしており、5年生までに扱った英語表現を中心に慣れ親しんできている。また、外国の文化紹介や ALT の出身国の話を興味深く聞き、視野を広げてきていると考えられる。

外国語活動についてのアンケート (4/26実施) を行ったところ、全体的には外国語活動の授業を楽しんだり進んで参加したりしているほか、「外国の人とやりとりすること」や「英語を使って伝え合うこと」に関心をもっている子どもが多く見られた。反面、声を出すことを躊躇している子どもも見受けられるため、さらに子どもたちの知的好奇心を刺激したり、英語を使って伝え合う必要感や楽しさを実感できる授業づくりが必要と考える。

(2) 単元について

本単元は "Hi, friends! 2" の Lesson5 「Let's go to Italy. 友だちを旅行にさそおう」及び、"We Can! 2" の Unit2 「Welcome to Japan. 日本の文化」をもとに構成している。「You can eat/see/enjoy ~.」「What/Where do you want to ~?」「We have ~.」等の表現に主に慣れ親しみ、修学旅行先の函館で出会う外国人観光客と話すことを本単元のゴールとしている。修学旅行という子どもたちの大きな関心事でのゴールを意識して活動させたり、具体的な場面で繰り返して慣れ親しんだりさせることによって、語句や表現の定着に近づけることができるのではないかと期待している。

一昨年度の6年生も同様のゴールに向けて活動を進めた。修学旅行の自主研修の場面ではほとんどのグループが何らかの形で外国人観光客と交流して成果を上げた。ただ、実際に外国人観光客に話しかける際の表現が分からなかったり、子どもたちが用意していた秋田紹介を唐突に伝えてしまったりといった場面が散見された。これらのことから、場面や相手の状況に応じた話しかけ方や話の流し方に改善の余地があり、それが新指導要領で述べられている見方・考え方にもつながるのではないかと考えている。

本単元では、よりよいコミュニケーションの仕方を意識して、進んで話したり聞いたりしようとする態度や能力を高めていくことを目指している。外国人観光客とのコミュニケーションのためには、本単元で扱う語句や表現だけではなく既習の表現を生かしたり、写真やジェスチャー等を用いた非言語の手段が必要になったりすることが予想される。総合的なコミュニケーション力が高められることを期待し、本単元を設定した。

(3) 指導について

本単元では、コミュニケーションの場面や相手の状況に着目し、それらに応じた英語表現やコミュニケーション方略を工夫するという「見方・考え方」を働かせた学習活動を単元を通して位置付けていく。言語・非言語を駆使して伝えたい・伝わったという思いや経験が、コミュニケーションの楽しさにつながるものと期待している。

本単元では「修学旅行で外国人観光客と会話を弾ませること」を単元のゴールとし、本単元を貫く目的意識をもって語句や表現に慣れ親しむことのできる単元構成にする。例えば、友達同士で見どころを紹介し合ったり、仮想外国人観光客である ALT や他グループに見どころを伝えるためのシミュレーションの場を設定したりする。なお、外国人観光客に紹介する内容については、修学旅行事前学習と関連付けて進めることができ、弘前大附属小学校へ訪問して紹介する秋田の見どころを外国語活動でも活用したいと考えている。

第1時では「函館だけでなく秋田にも来てほしい」という思いを高めつつ単元の課題を示し、話題の中心となる秋田の紹介のために「Where do you want to go?」「What do you want to eat/see?」「I want to ~.」の表現に慣れ親しむ活動を中心に行う。

第2・3時では、既習単元で慣れ親しんだ表現を主に使い、「You can see/eat/enjoy ~.」「We have many festivals.」等の形で秋田の見どころの紹介文づくりを行う。

第4・5時は、外国人観光客を相手とした秋田の見どころ紹介へ向けたシミュレーションの場とし、ALT や HRT, 他グループを相手に試す機会とする。その際、函館での様々な場面をイメージし、相手の状況に応じた話しかけ方や、滑らかな会話の流れをつくるための話題選びやつなぎ言葉を工夫する活動を取り入れ、子どもたちのコミュニケーションに工夫が生まれるような場面をつくっていく。子どもたちがコミュニケーションを試しながら工夫を重ね、言い換えやジェスチャー等の表現方法の工夫や、ほかに準備しておくべき言葉や写真等への気付きを生む姿が本単元での「自律した学習者」ではないかと考えている。

チャレンジタイムの時間も含め第6時は、実際の場面に向けて子どもたちが必要とした新たな表現や見どころ紹介資料等の準備時間とし、第7時での留学生との交流につなげる。留学生を仮想外国人観光客として生きたコミュニケーションを試す機会として設定する。

単元を通して主にチャレンジタイムの時間を使い、修学旅行で各自が携える「オリジナル会話集」を作っていく活動を取り入れ、例文を正確に書き写したり語順に注意して個々人に合った語句を入れ替えたりする「書く」活動も取り入れていく。

- 3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉
- (1) 行きたい場所や食べたい物について尋ねたり紹介したりする表現に慣れ親しむ。〈4, 12, 14〉
 - (2) 場面や相手の状況に応じた伝え方を考えようとする。〈イ〉
 - (3) 他者に配慮しながら、秋田の見どころを中心に伝えようとする。〈オ〉

4 単元の構想（総時数 7 時間） ※「見方・考え方」を働かせた学習活動

Lesson13 ビデオレターを作ろう！（5年生） Lesson1 Who is he/she?クイズを作ろう！

※CT：チャレンジタイム英語（朝の15分活動）の時間

| 時間 | 学習活動 | 教師の主な支援 (H)：HRT, (A)：ALT | 評価〈本校の資質・能力との関連〉 |
|---------|--|--|---|
| 1 | (1) 単元のゴール及び「What/Where do you want to ~?」「I want to ~.」の表現を知り、行きたい場所や食べたい物等を伝え合う。 単元のゴール：修学旅行で外国人観光客と会話を弾ませよう！ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手を意識して話題を考える経験をもとに、見通しがもてるよう単元のゴールを示す。(H)&(A) ・ 秋田や函館の名所を使い、意欲を高める。(H) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「どこに行きたい?」「～に行きたい」を表す表現に慣れ親しんでいる。〈4,12〉 |
| CT | <ul style="list-style-type: none"> ・ 見どころ紹介の準備をする。 ・ 「オリジナル会話集」を書く。 | | |
| 2 3 | (2) 「We have ~.」「You can see/eat/enjoy ~.」の表現を使い、秋田の見どころ紹介文を作る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介を聞く側の表現にも目を向け「I want to eat ~.」等の表現にも広げる。(H)&(A) ・ 表現に慣れ親しめるよう、具体的な活用場面を設定する。(H)&(A) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に友達の見どころ紹介を聞こうとしている。〈4〉 |
| CT | <ul style="list-style-type: none"> ・ 見どころ紹介の準備、練習をする。 ・ 「オリジナル会話集」を書く。 | | |
| 4 | (3) 話しかける場面のシミュレーションをしながら、どんな表現が必要かを考え、基本的な表現を知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な場面から話しかけ方を想定できるようシミュレーション場面を設定し、子どもたちの考えに合わせ、基本となる表現を示す。(H)&(A) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に会話をしようとしている。〈イ,12〉 |
| CT | <ul style="list-style-type: none"> ・ 見どころ紹介の準備、練習をする。 ・ 「オリジナル会話集」を書く。 | | |
| 5 本時 | (4) 会話場面のシミュレーションをしながら、場に合わせた話しかけ方や会話の弾ませ方を考える。 〈予想される子どもの反応〉 ・ この場面に合った話題で始めたいな。 ・ いきなり秋田の紹介でないように。 ・ 習った英語で言えないかな。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 修学旅行で予想される場面や、相手の反応を想定できるよう、シミュレーション場面を設定する。(H)&(A) ・ 子どもたちが自信をもって取り組めるよう、的確な英語表現や適切な表現方法の助言をする。(H)&(A) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝え方を工夫しながら、積極的に会話をしようとしている。〈オ, 14〉 |
| CT | <ul style="list-style-type: none"> ・ 見どころ紹介の準備、練習をする。 ・ 「オリジナル会話集」を書く。 | | |
| 6 | (5) 修学旅行や留学生との交流に向けての見どころ紹介の準備をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちが自信をもって見どころ紹介ができるよう、適切な表現や紹介方法を助言したりする。(H)&(A) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に見どころを紹介しようとしている。〈イ,14〉 |
| 7 | (6) 留学生に秋田の見どころ紹介をしながら交流する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 修学旅行や留学生との交流のため、表現を積極的に使って伝え合える雰囲気づくりをする。(H)&(A) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に会話をしようとしている。〈イ, オ, 14〉 |

○本単元で育む主な資質・能力
よりよいコミュニケーションの仕方を意識して、進んで話したり聞いたりしようとする。

(イ)

・本単元の学習活動で働かせる主な「見方・考え方」
コミュニケーションの場面や相手の状況に着目し、それらに応じた語句や表現、コミュニケーション方略の工夫を考える。

修学旅行

・ 会話を楽しみ、相手の情報をシートに記録する。

Lesson5 修学旅行の思い出 Lesson6 自分たちの町・地域〈スカイプでオーストラリアの小学生と交流〉

5 本時の実際 (5 / 7)

(1) ねらい

修学旅行の具体的な場面や仮想外国人観光客の状況に着目し、話題選びや共感を大切に話しかけ方や伝え方を工夫しながら、会話の表現を考えようとしている。<オ, 14>

(2) 展開

| 時間 | 学習活動 (・は予想される子どもの姿) | 教師の支援 (H) : HRT, (A) : ALT 評価 |
|--|---|---|
| 5分 3分 | ① ウォームアップをする。 ② 単元のゴールを確かめる。 | <ul style="list-style-type: none"> 活動へ向かう雰囲気づくりのために英語によるあいさつや Listen & Think をする。(H) & (A) 意欲を持続させるために、単元のゴールに向けた単元の計画を確かめる。(H) |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> Goal of Lesson : 修学旅行で外国人観光客と会話を弾ませよう！ </div> | | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> Today's Goal : 相手に合わせた話しかけ方や話題の工夫を考えよう。 </div> | | |
| 32分 | <ul style="list-style-type: none"> いきなり秋田紹介になるのはなんだか不自然な空気があったよね。 仲良くなれそうな話題があればいい。 ③ 具体的な場面に合わせた、話しかけ方や話題の工夫を試してみる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ ラーメン屋さん前で ○ 地図を見て立ち止まっている外国人観光客の場合 ○ お土産屋さんで <ul style="list-style-type: none"> ラーメン屋さんに並んでいるんだからラーメンの話から入ればどうだろう？ 「Do you like Ramen?」とか。「What Ramen do you like?」で種類が聞けるかなあ。 「Me, too.」とかあいづちを打つといいね。 習った英語を少し言い換えてみるといいね。 「お勧め」は何て言うんだろう？言える表現でなんとかならないかな。 うまく秋田の紹介につなげたいな。 <ul style="list-style-type: none"> ○ ハンバーガー屋さん前で | <ul style="list-style-type: none"> 本時の活動の見通しがもてるよう、前時で残された課題を確認する。(H) HRT は具体的な場面設定をし、ALT は外国人観光客に扮し、実際の場面を想定した、話しかけ方や話題、コミュニケーションのしかたについて考えられるよう促す。その際、これまで蓄積している「Good コミュニケーション」のポイントを生かしながら、グループで 10 往復以上の会話となるよう意識付ける。(H) & (A) 途中で、グループごとの工夫や困ったことを出し合い、共有できる場をもつ。その際、できるだけ自然な流れの会話となるよう、場面や相手の状況に着目して既習表現を使ったりどんな表現が必要かを考えたりできるよう助言する。(H) & (A) 後半では、外国人観光客に扮した HRT 及び ALT を相手にした類似場面を設定し、共有した工夫を生かしたコミュニケーションを試してみる場をもつ。(H) & (A) 書く活動として、使えそうな表現については自分の会話集に正しく書き写せるよう例文や四線黒板で示す。(H) & (A) |
| 5分 | ④ 本時の活動をふり返る。 ⑤ あいさつをする。 | <ul style="list-style-type: none"> 「Goal of Lesson」「Today's Goal」を確認しながらふり返ることで、単元全体への意欲や、子どもたちが自己の伝え方の向上を確かめられるよう促す。(H) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 場面や相手の状況に合わせた話しかけ方や伝え方、話題について、既習表現を使ったり「Good コミュニケーション」のポイントを生かしたりして、表現の工夫をしようとしている。 <オ, 14 > (ふり返り、活動の様子) </div> <ul style="list-style-type: none"> 本時の活動をふり返り、次時の課題や内容の確認をする。(H) & (A) |